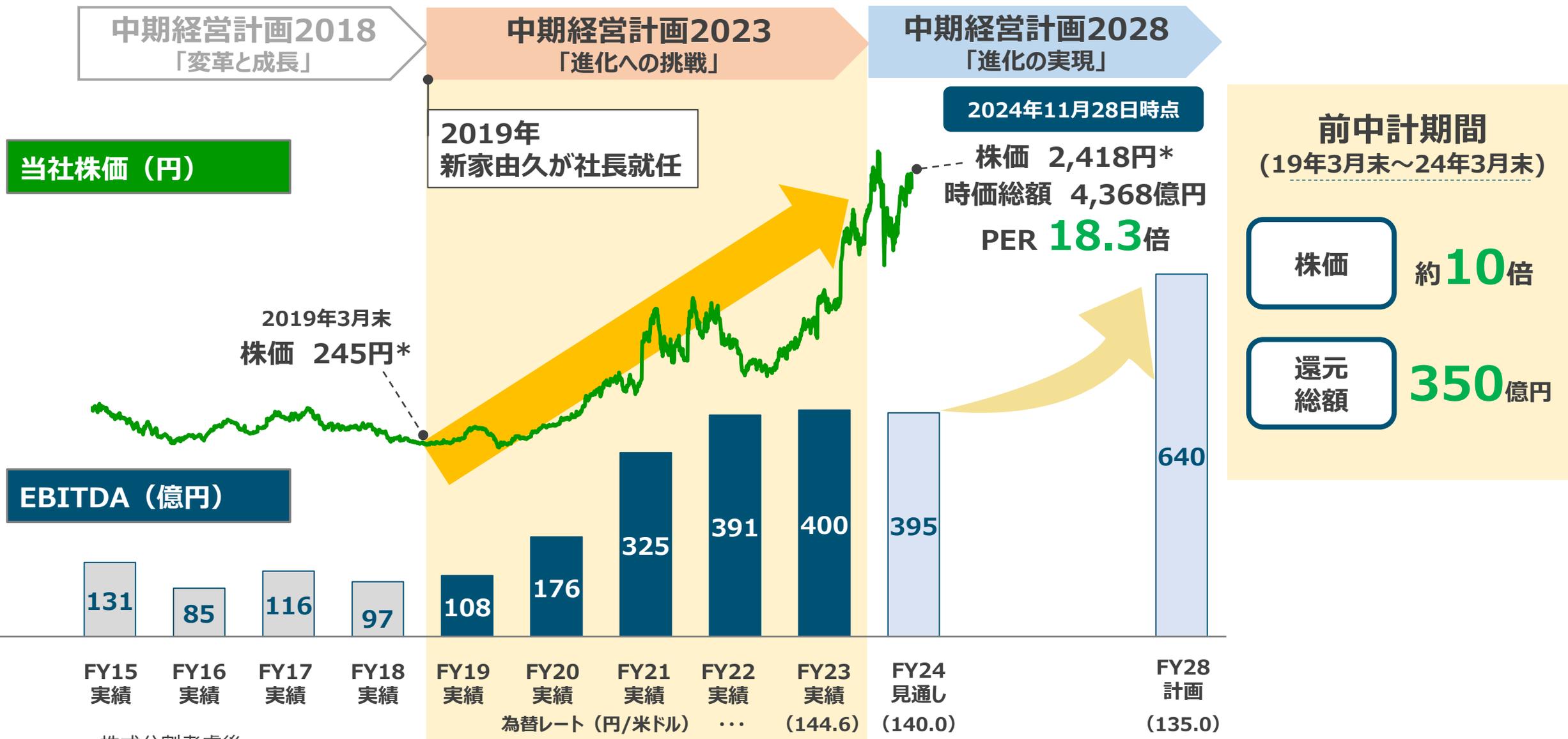


進化の実現 – 成長投資と株主還元の両立 –

執行役員 経営管理本部長
寺下 和良

デクセリアルズ 株式会社
(証券コード：4980)

「進化の実現」に向けた礎を築き、更なる飛躍のスタートへ



* 株式分割考慮後

1

デクセリアルズ株式会社について

2

持続的成長に向けた取り組み -中期経営計画2028-

3

株主還元

1

デクセリアルズ株式会社について

2

持続的成長に向けた取り組み -中期経営計画2028-

3

株主還元

デクセリアルズ株式会社（証券コード：4980）について

社名の由来

デクステラス

Dexterous + **Materials**

（巧みな、機敏な）

マテリアルズ

（材料・素材）

デクセリアルズ

Dexerials

様々な「材料」を「巧みに、機敏に」掛け合わせ
新たな材料・デバイス・ソリューションを生み出す企業

会社概要

設立	2012年6月20日（前身のソニーケミカルは1962年設立）
本社	栃木県下野市下坪山1724
拠点数	国内:8 海外:12（北米:3 欧州:2 アジア:7）
事業内容	電子部品、接合材料、光学材料などの製造・販売
資本金	16,251百万円（2024年3月31日現在）
従業員数	1,892名（連結、2024年3月31日現在）
上場市場	東京証券取引所 プライム市場
時価総額	約4,368億円（2024年11月28日時点）

代表取締役社長 新家 由久



本社・栃木事業所（栃木県）



ソニーケミカルを前身として60年以上にわたり、世界に新たな価値を提供

1962
ソニーケミカル
創業

1987
東京証券
取引所
第二部に
上場

2000
ソニーによる
100%
子会社化
上場廃止

2012
日本政策投資銀行
などが当社株式を取得、
デクセリアルズとして
事業開始

2015
東京証券
取引所
第一部に
上場

2021
本店所在地
栃木県
下野市へ
変更

2022
・京都セミコンダクター子会社化
・東京証券取引所 第一部から
プライム市場へ移行
・デクセリアルズ創業10周年

2024
京セミ・DXPC
が統合し
DXPS発足
操業開始

1977
異方性導電膜 (ACF)



2002
反射防止フィルム



2007
光学弾性樹脂 (SVR)



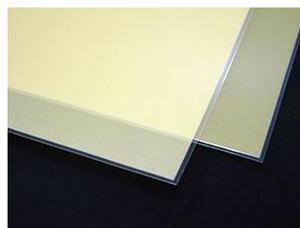
KYOSEMI
A Dexerials Company

電子部品、接合材料、光学材料などを開発・製造・販売しています

光学材料部品事業セグメント



反射防止フィルム



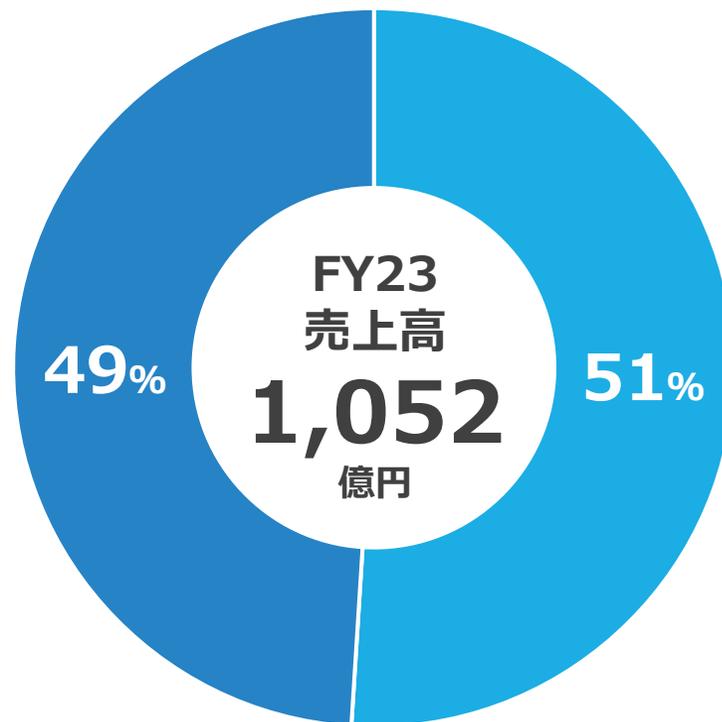
蛍光体フィルム



光学弾性樹脂
(SVR)



精密接合用樹脂



電子材料部品事業セグメント



接合関連材料



異方性導電膜
(ACF)



表面実装型ヒューズ



マイクロデバイス



光半導体

当社製品×最終製品

反射防止フィルム



ノートPCディスプレイ等の光学機器の表面で発生する光の反射を抑制することで視認性の悪化を防止するための光学フィルムです

光学弾性樹脂(SVR)

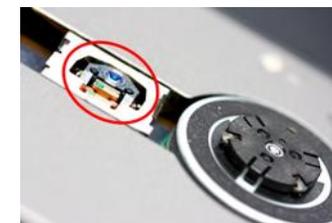


スマートフォン・タブレット・ノートPC等のディスプレイ内部にあるエアギャップを埋め、光の屈折・反射を抑える紫外線硬化型の弾性樹脂です

精密接合用樹脂



カメラモジュール



光ピックアップ

紫外線、熱、紫外線+熱で硬化する接合用樹脂です。低温短時間での硬化と低収縮を実現する、スマートフォン等のカメラやセンサーのモジュールの精密接合に最適な接着剤です

当社製品×最終製品

異方性導電膜(ACF)



● 異方性導電膜(ACF)



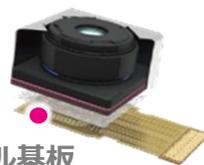
プリント回路基板

大型ディスプレイ
(TV)



フレキシブル基板

中小型ディスプレイ
(スマホ・タブレット・
ノートPC)



カメラ
モジュール

ほぼ全てのフラット パネル ディスプレイで使われるデファクト・スタンダードの接合材料です。熱硬化性の樹脂に導電粒子を分散させた導電性の接着フィルムで、ドライバーICやセンサーモジュールと、基板を導電接続します

表面実装型ヒューズ



リチウムイオンバッテリー搭載の電子機器を安全に使用するための二次保護回路ヒューズです。リチウムイオンバッテリーの「過電流」と「過充電」時にヒューズエレメントを溶断することで電池の安全性を向上させます

当社製品×最終製品

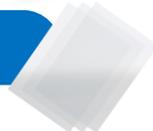
異方性導電膜(ACF)



光学弾性樹脂(SVR)



反射防止フィルム



自動車ディスプレイ



ディスプレイの電子化や画面の大型化・高精細化により、高い反射防止機能と防汚性能を持つ当社の反射防止フィルムの採用が進んでいます。その他にも、光学弾性樹脂（SVR）や異方性導電膜（ACF）等も自動車ディスプレイ向けに伸長しています

精密接合用樹脂



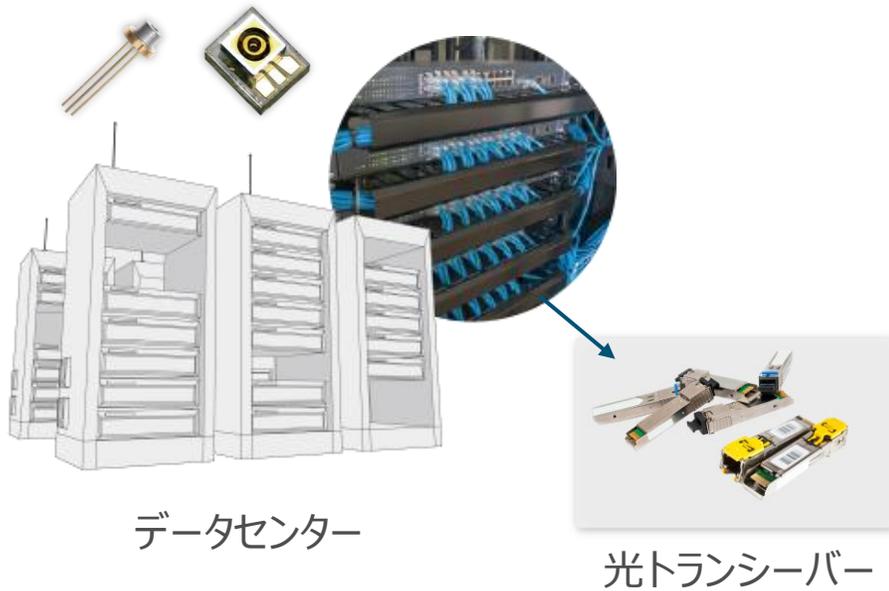
車載センサー



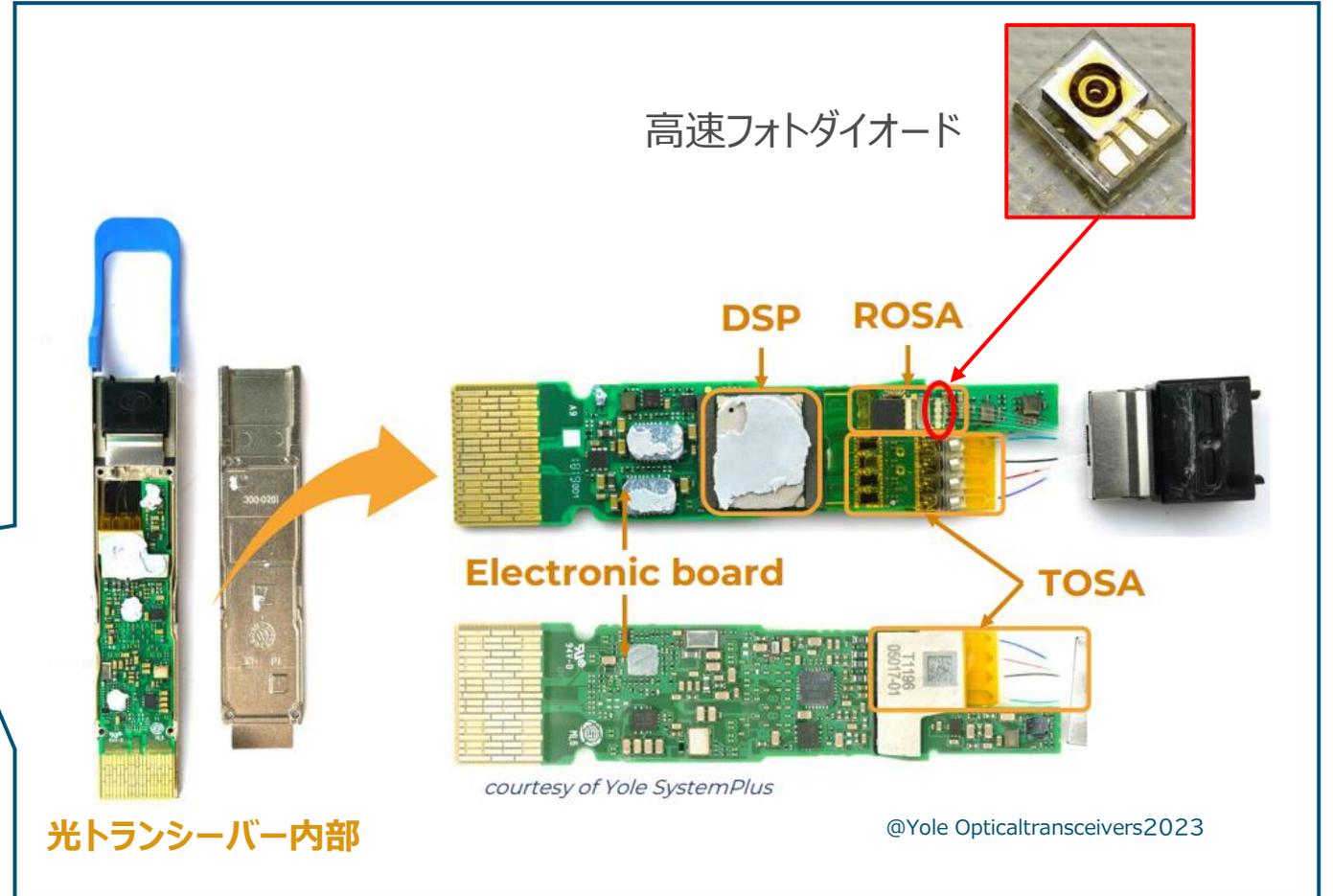
先進運転支援システム（ADAS）の進化に伴い、自動車一台あたりの車載センサーの搭載数が増加しており、センサーモジュール向けに当社の精密接合用樹脂の採用が進んでいます

当社製品×最終製品

光半導体デバイス



電気を光に、光を電気に変換する半導体素子を総称して「光半導体」と呼び、これらが組み込まれた電子部品が光半導体デバイスです。各種データセンター向け光トランシーバー等に当社製品が採用されています



主力製品はニッチな市場で世界No.1

世界シェアトップ^①の高付加価値製品が生み出す高い収益性



異方性導電膜
(ACF)

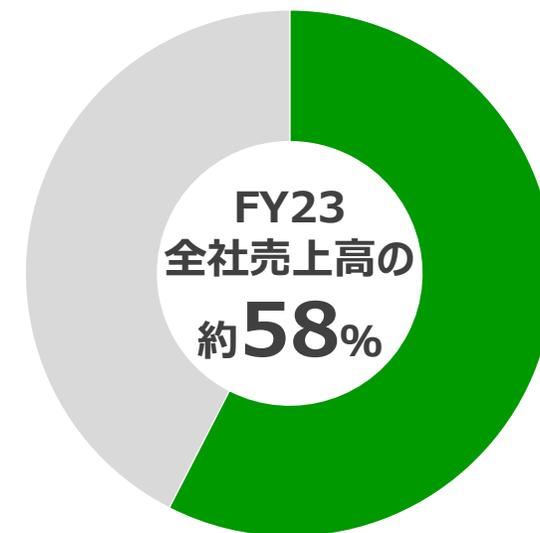


反射防止フィルム



光学弾性樹脂
(SVR)

主力3製品の売上高



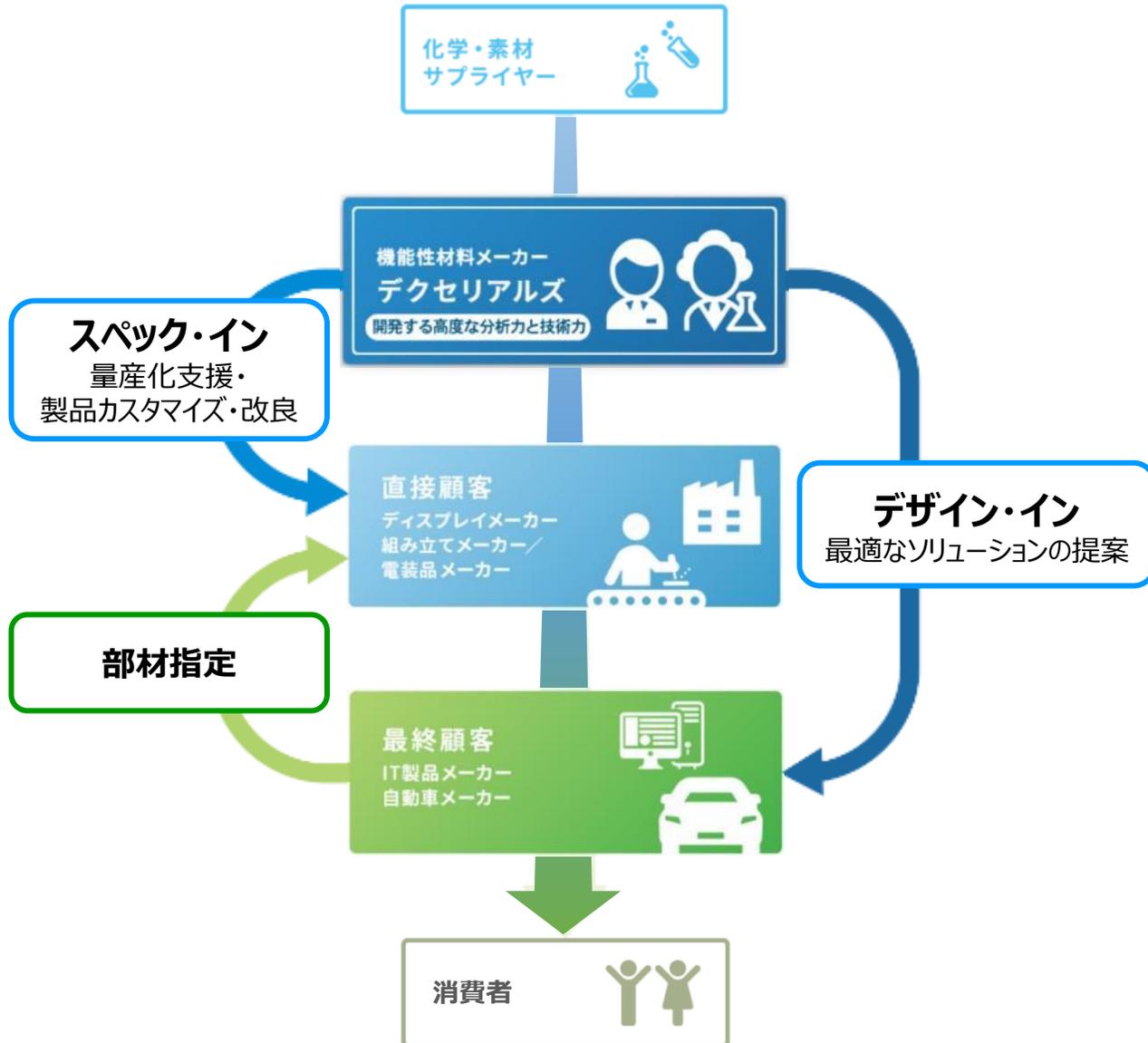
FY23
全社営業利益率
約32%

※1: 株式会社富士キメラ総研発行「2024ディスプレイ関連市場の現状と将来展望」による、大型および中小型ディスプレイ向けACFの合計の2023年の金額シェア。

※2: 株式会社富士キメラ総研発行「2024ディスプレイ関連市場の現状と将来展望」による、表面処理フィルム（ドライコート）の2023年の金額シェア。

※3: 株式会社富士キメラ総研発行「2024ディスプレイ関連市場の現状と将来展望」による、ディスプレイの貼り合わせで使用される光学透明接着剤（OCR/LOCA）の2023年の金額シェア。光学弾性樹脂（SVR）は、光学透明接着剤の当社製品名です。

当社のビジネスモデル – シングルソース製品の創出 –



デザイン・イン: 当社独自のアプローチで シングルソース製品を創出

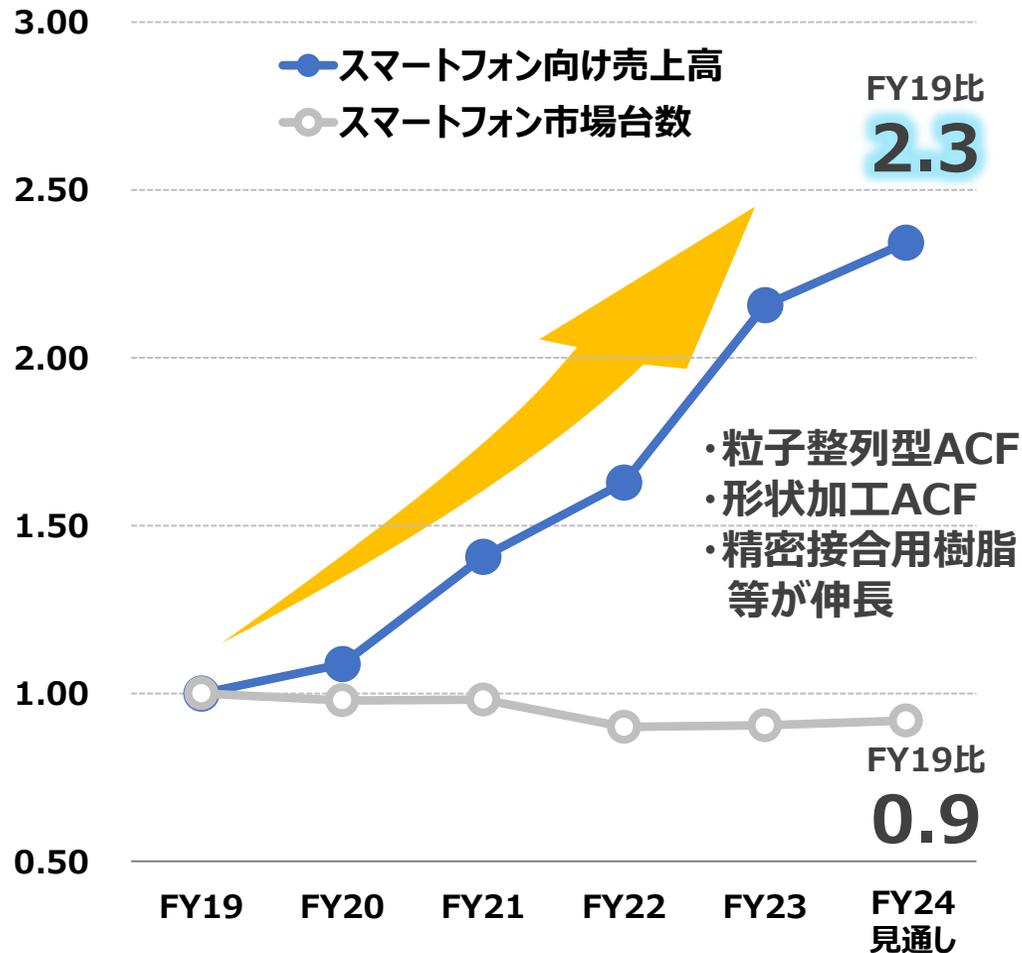
- 最終顧客に直接アプローチし、将来の技術／製品についての課題や要望を引き出す
- 顧客の課題や技術トレンドを先回りした最適なソリューションを開発・提案
- 高度にカスタマイズされた当社のシングルソース製品が最終顧客から直接顧客に部材指定

シングルソース製品の拡大

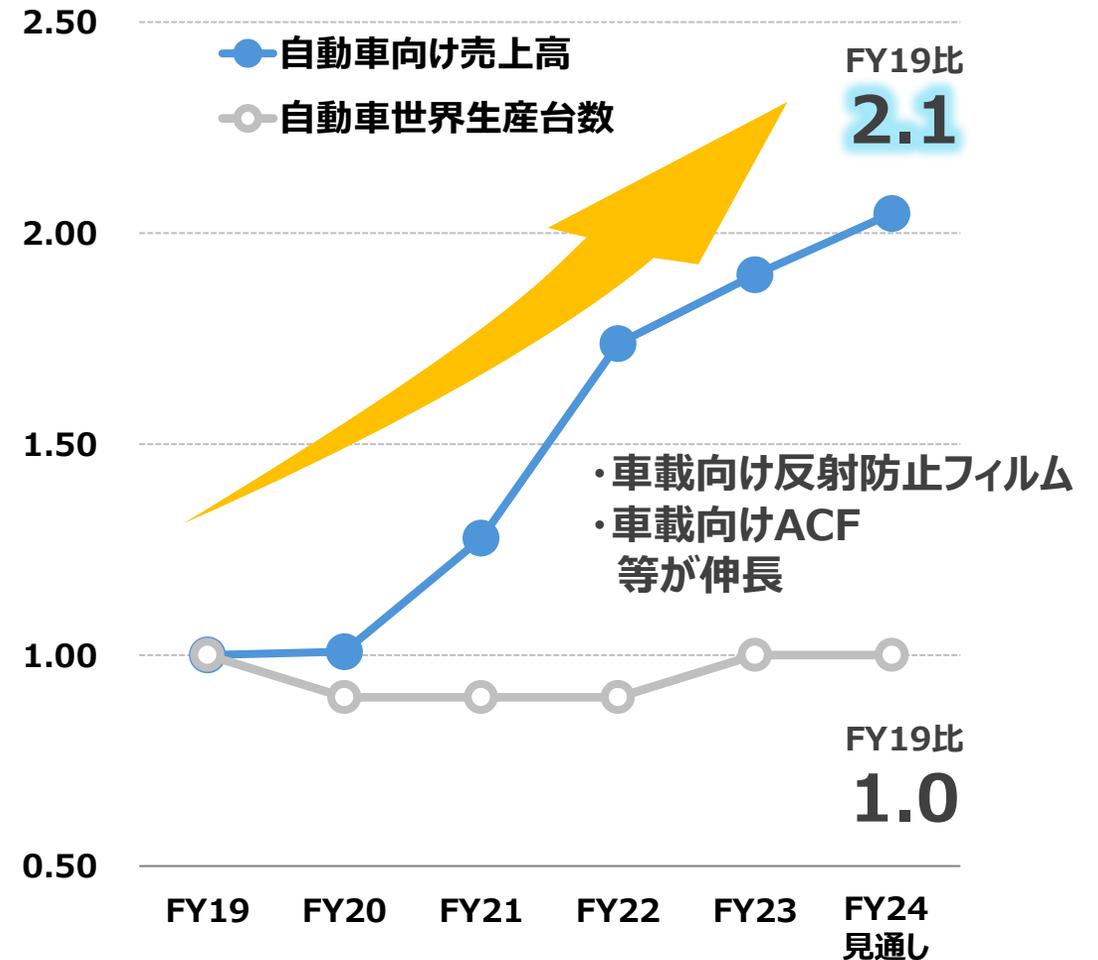
- 新たな市場を創出
- 高付加価値で価格決定力の強い製品の拡大が、高い収益率を維持し、事業成長に繋がる

市場の成長を上回る事業成長を達成 – 市場環境に左右されず成長できる事業体質へー

◆スマートフォン向け売上高 vs スマートフォン市場規模
(FY19 = 1)



◆自動車領域売上高 vs 自動車市場規模
(FY19 = 1)



本日の内容

1

デクセリアルズ株式会社について

2

持続的成長に向けた取り組み -中期経営計画2028-

3

株主還元

成長投資と株主還元の両立により、持続的成長と企業価値向上を実現します

パーパス

Empower Evolution. つなごう、テクノロジーの進化を。

基本方針

- ① 成長領域での事業拡大 ② 既存領域における事業の質的強化 ③ 経営基盤の進化

FY2028

売上高、利益ともにFY2023比 **1.5** 倍を目指す

売上高	事業利益	EBITDAマージン
1,500 億円	500 億円	43 %
一株あたり純利益 (EPS) *	投下資本利益率 (ROIC)	自己資本利益率 (ROE)
208.81 円	14 %程度	25 %程度

為替レート (円/米ドル) : 135.0

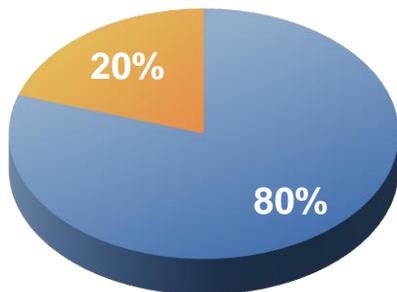
* 株式分割考慮後

成長領域と既存領域の両方で事業成長を達成します

2023年度（実績）

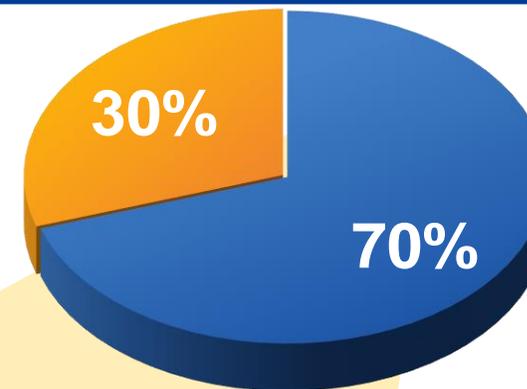
2028年度（計画）

売上高
1,052 億円



■ 既存領域
■ 成長領域

売上高
1,500 億円



既存領域：エレクトロニクス事業など
成長領域：自動車事業、フォトニクス事業

成長領域 事業規模（売上高）

既存領域 事業規模（売上高）

（億円）

（億円）

■ フォトニクス事業
■ 自動車事業

210 億円
70
140

450 億円

150
300

年平均成長率
(CAGR)
16.5%

年平均成長率
(CAGR)
16.5%

FY23（実績）

FY28（計画）

850 億円

1,050 億円

主要4カテゴリー
年平均成長率
(CAGR)
8.6%

その他
光学樹脂材料
反射防止フィルム
表面実装型ヒューズ
異方性導電膜 (ACF)

FY23（実績）

FY28（計画）

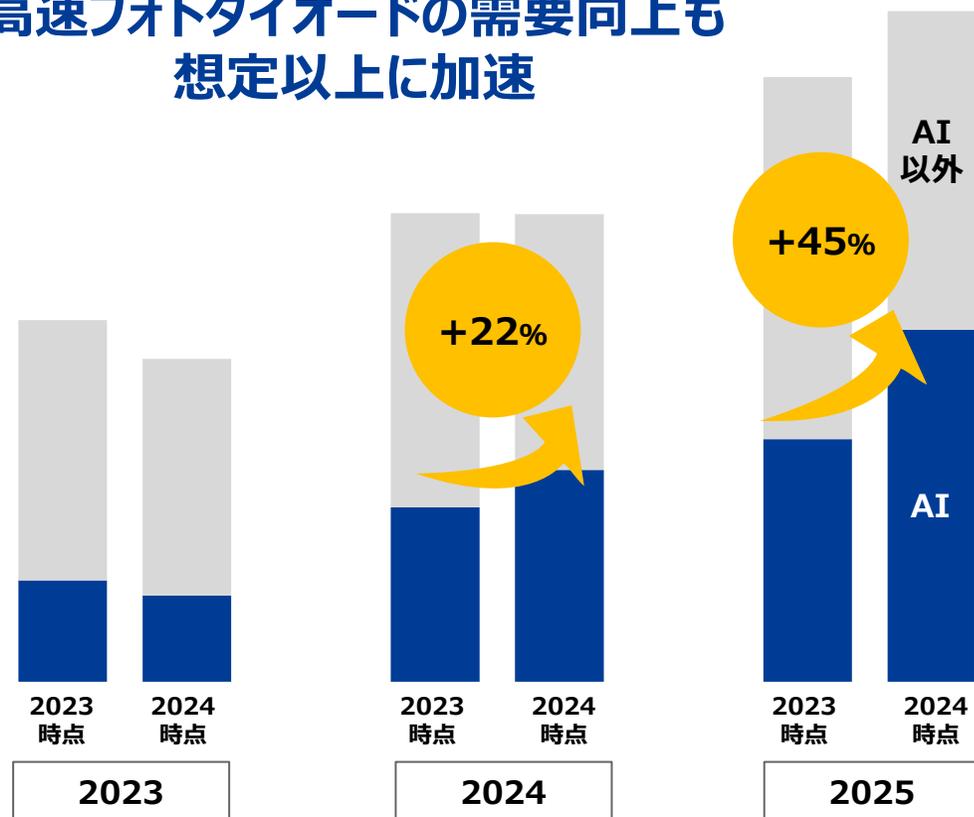
フォトニクス事業の進捗

市場：生成AI向けデータコム
想定以上に生成AI需要が増加

当社：市場加速にしっかりとキャッチアップ*

データコム・トランシーバの出荷金額

高速フォトダイオードの需要向上も
想定以上に加速



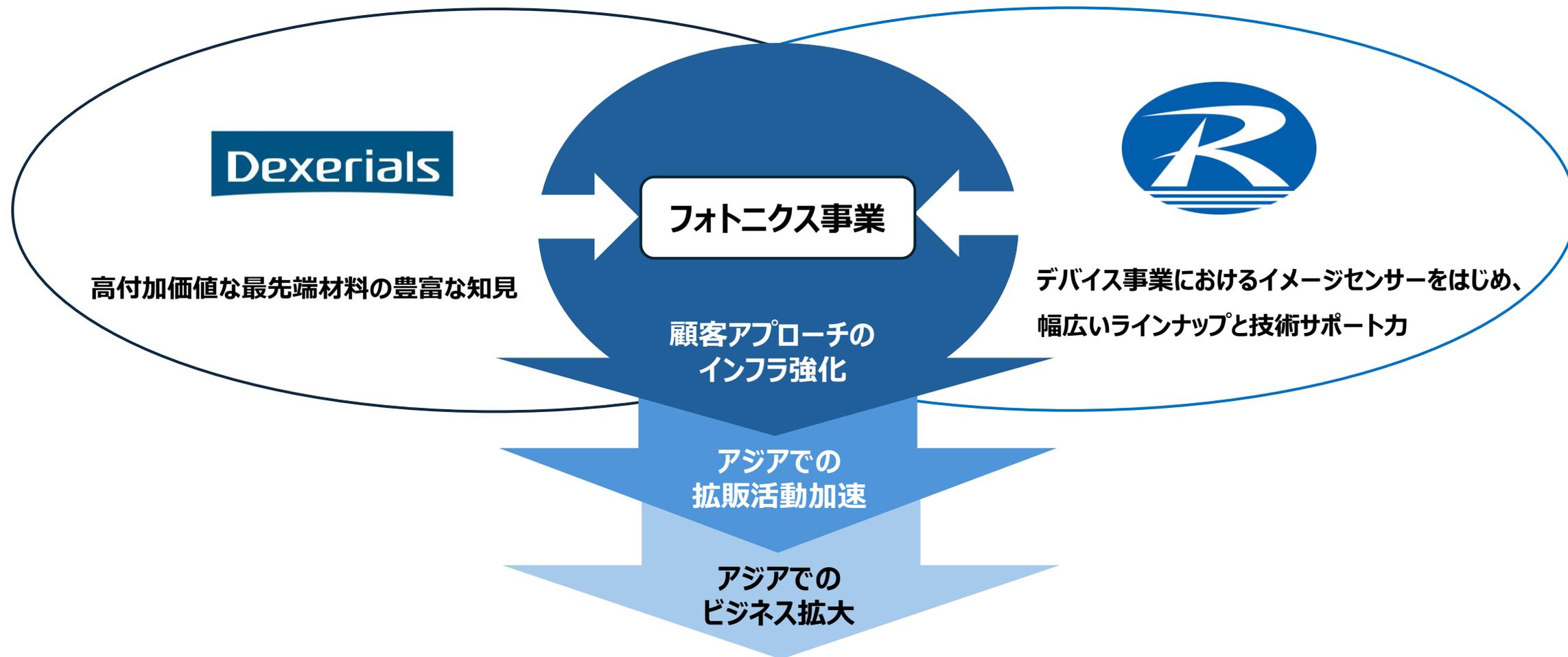
- ◆ 顧客からの追加案件獲得、新規顧客獲得
- ◆ キャパシティの増強に取り組む
- ◆ 次世代高速フォトダイオードの開発も順調に進捗



*引用元: LightCounting社 市場分析情報より

経営基盤の進化：営業機能の強化

当社の持つ高付加価値製品を、レスター社の強力なネットワークを通じて販売する活動をスタート



事業ポートフォリオの拡大に寄与

自動車事業の進捗

自動車事業のデザイン・イン&スペック・イン活動をグローバルで拡大

ドイツ セムソテック社へ出資



- ・人材の派遣（営業等）
- ・材料技術等のサポート
- ・販売網の共有
- ・生産インフラ強化



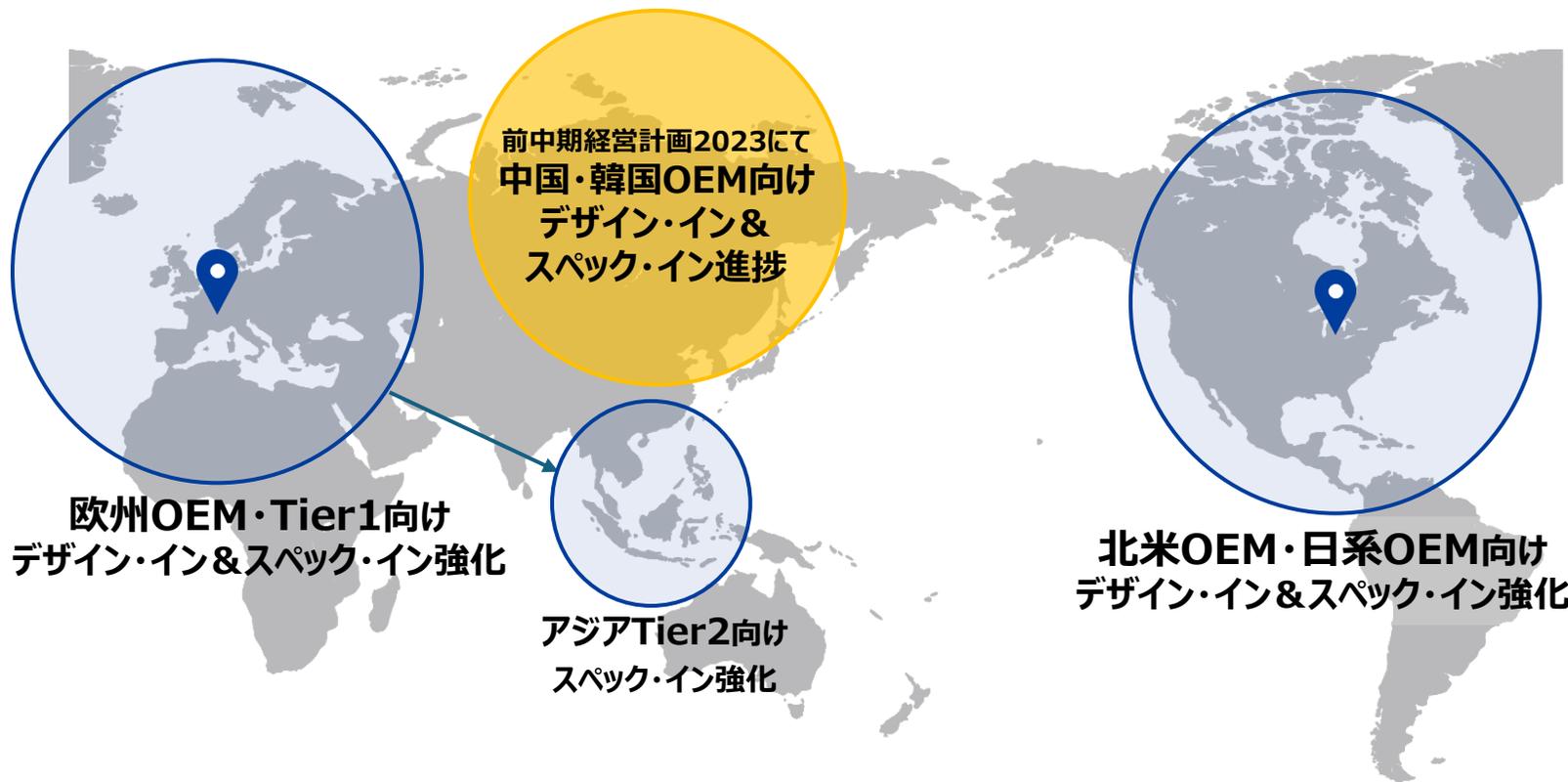
光学ソリューションセンター(ドイツ・カーム)

米国 デトロイトオフィス新設



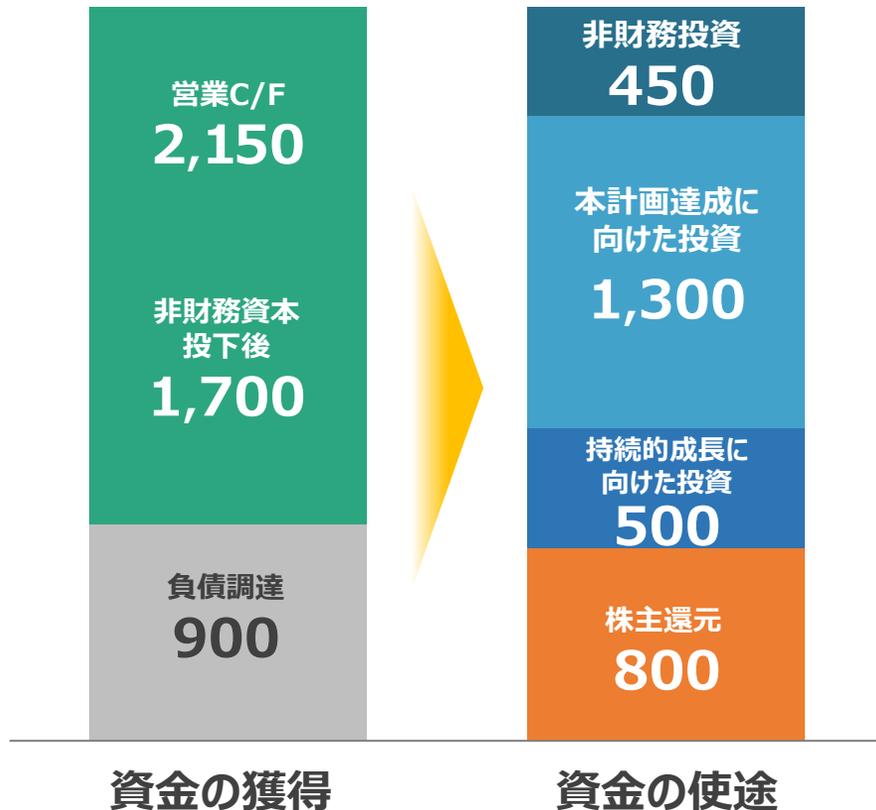
デトロイトオフィス(ミシガン州・ノバイ)

- ・潜在顧客集中地域
- ・エンジニアリングマーケティングを強化



最適資本構成を踏まえた成長投資と株主還元の両立を目指します

中期経営計画期間 5年間累計 (億円)



非財務投資

- 重要課題 (マテリアリティ) である「人・技術」への投資

本計画達成に向けた投資

- 前中計の「約3倍」の投資を計画
- 投下資本利益率 (ROIC) 目標 14%程度

持続的成長に向けた投資

- 蓋然性が高まった際の「追加投資枠」を確保
- 投資機会がない場合は追加還元を検討

株主還元

- 総還元性向「60%」を目途に還元 (5年間累計)
- 配当性向 40%を目途として、株主資本配当率 (DOE) 7%下限とする方針

財務戦略

- 純有利子負債倍率 (ネットD/Eレシオ) : 0.45x、自己資本比率:50%を目安 (FY28)

FY24.1H 連結業績サマリー

(単位：百万円)	FY23.1H	FY24.1H	前年同期比 増減	
				為替変動の影響除く
売上高	49,595	59,635	+20.2%	+12.5%
事業利益	16,146	22,320	+38.2%	+17.8%
中間利益*	10,398	15,856	+52.5%	
1株当たり中間利益*	59.73円	92.27円	+54.5%	
EBITDA**	18,815	25,565	+35.9%	+18.3%
EBITDAマージン	37.9%	42.9%	+4.9%Pt	+1.9%Pt

* 親会社の所有者に帰属する中間利益に読み替え

** EBITDA=事業利益+売上原価並びに販売費及び一般管理費として計上される減価償却費

FY24 連結業績見通し：期初見通しから変更なし

(単位：百万円)	FY23 144.6円/米ドル 日本基準	FY23 144.6円/米ドル IFRS*	FY24見通し	
			2H：140.0円/米ドル IFRS	前期比増減額 為替変動の影響除く
売上高	105,198	105,198	107,000	+1,802
営業利益	33,421	—	—	—
事業利益 (IFRS)	—	34,086	33,500	-586
税引前利益 (IFRS)	—	—	32,000	—
経常利益	30,028	—	—	—
当期純利益	21,382	22,575	23,000	+425
1株当たり当期純利益	368.71円		132.20円	
(参考)のれん償却前	408.08円		—	
1株当たり配当額	100円		中間78円・期末26円	
自己株式取得総額	5,999		—	
総還元性向(のれん償却前)	50.8%		—	
DOE	7.3%		9.8%	
EBITDA	40,024	39,214	39,500	+286
ROIC	22.3%	22.0%	18.8%	-3.2%Pt
ROE	27.1%	29.5%	25.5%	-4.0%Pt
(参考)のれん償却前	30.0%			

(注) 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益 (FY23日本基準) および親会社の所有者に帰属する当期利益 (FY23IFRS、FY24見通し) に読み替え
 EBITDA (FY23日本基準) = 営業利益 + 営業費用として計上される減価償却費 + のれん償却費、EBITDA (FY23IFRS、FY24見通し) = 事業利益 + 売上原価並びに販売費及び一般管理費として計上される減価償却費
 ROIC (FY23日本基準) = (営業利益 × (1 - 実効税率)) ÷ (自己資本 + 有利子負債) × 100、ROIC (FY23IFRS、FY24見通し) = (事業利益 × (1 - 実効税率)) ÷ (自己資本 + 有利子負債) × 100
 ROE (FY23日本基準) = 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ 自己資本 × 100、ROE (FY23IFRS、FY24見通し) = 親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 自己資本 × 100
 総還元性向(のれん償却前) = (配当支払総額 + 自社株買い総額) ÷ (当期純利益 + のれん償却額) × 100
 配当額は中間については2024年10月実施の分割前の金額を記載し、期末については当該株式分割を考慮した金額を記載しております

*FY23のIFRS実績値は日本基準からIFRSへの組み替えにあたり、5月13日開示分からさらに調整をおこなっております

本日の内容

1

デクセリアルズ株式会社について

2

持続的成長に向けた取り組み -中期経営計画2028-

3

株主還元

稼ぐ力の向上に伴い、株主還元方針を拡充する方向で見直しました

株主還元方針

成長投資と株主還元の両立による持続的成長とさらなる企業価値の向上を目指して、還元方針を見直し

総還元性向 *

40 %目途

FY19-23還元額

約 **350** 億円

* のれん償却前当期純利益に対する総還元性向

総還元性向 **

60 %目途

** 5年間累計

配当性向

40 %目途

株主資本配当率
(DOE) ***

7 %以上

*** 前期末純資産額に対して7%

FY24-28還元額 **800** 億円程度

株式分割

当社株式の流動性の向上と、投資家層の拡大を目的として、24年10月1日、下記の割合で株式分割を実施

1株につき、3株

自己株式取得

取得総額：**50** 億円

2024年11月14日～2024年12月23日の期間で取得
※取得した自己株式の全株式を消却予定

今期の配当予定

1株あたり中間**78**円、期末**26**円(分割後)を予定
(分割考慮前1株あたり年間配当金**156**円)

わたしたちのパーパス&ステートメント

Purpose

Empower Evolution.

つなごう、テクノロジーの進化を。

Empower Evolution.

Connect People and Technology.

人と技術をつなごう。
社会と希望をつなごう。

デジタルテクノロジーの
進化に欠かせない材料やデバイス、
ソリューションを生み出して、
ここから世の中を変えていこう。

私たちデクセリアルズは、
お客さまと一緒に明日を思い描き、
課題を一つひとつ解決していく。
技術と人を巧みに掛け合わせ、
新たな進化を生み出していく。

さあ、今日も挑戦しよう。
もっと豊かで、もっと効率的な社会へ。
あらゆるステークホルダーが、
いつまでも心地よく暮らせる世界を目指して。

Materiality

「技術」と「人財」の強化

10年後のありたい姿

- より広い領域でデジタル・テクノロジーの進化に貢献
- 社会的価値と経済的価値を創出し、持続的成長を実現

Empower Evolution.

つなごう、テクノロジーの進化を。



Appendix



もっとよく知る デクセリアルズ①

トップ
ページ



投資家
情報



「個人投資家のみなさまへ」
随時更新中



デクセリアルズ ホームページ
<https://www.dexerials.jp>

製品紹介やサステナビリティの取り組みなど
当社ホームページでご紹介しております



IRニュースリリース

もっとよく知る デクセリアルズ②

統合
レポート

毎年統合レポートを発行



デクセリアルズ統合レポート 2024

<https://www.dexerials.jp/csr/download>



TECH
TIMES

当社の技術や製品をわかりやすくご紹介



TECH TIMES

<https://techtimes.dexerials.jp>



Empower Evolution.

つなごう、テクノロジーの進化を。



注意事項

本資料に言及されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

また、本資料は、情報の提供を目的としており、いかなる勧誘行為を行うものでもありません。